

ヒューマンアカデミー株式会社

登録日本語教員養成機関・登録実践研修機関

自己点検・評価報告書

ヒューマンアカデミー株式会社 社会人教育事業部

事業部長 濱田 聡

# 自己点検表自己点検・評価報告書

**実施時期：**毎年4月、年1回実施

**実施方法：**アンケート調査・聞き取り調査、各部署担当者責任者により実施

**実施責任者：**社会人教育事業部 事業部長 濱田 聡

**実施担当者：**社会人教育事業部 戦略室 商品課 横山 可奈恵

**実施結果：**毎年6月にホームページにて公開する。

**課題等への対応：**課題や問題が生じた場合には、社会人教育事業部戦略室商品課と学務室において検討・協議を行い、解決する。

## 【点検・評価について】

教育水準の向上を図り、登録日本語教員養成機関および登録実践研修機関の目的を達成するため、自ら点検及び評価を行う。現時点で評価できない項目については斜線（/）等を記載する。

**評価基準（5段階評価）：**5＝達成、4＝ほぼ達成、3＝どちらともいえない、2＝取り組みを検討中、1＝改善が必要

## 【理念・目標等】

### （1）当該養成機関の設置理念

ヒューマンアカデミーの教育理念「私たちは世界で活躍する人材を育てます。」「私たちは新しい社会を創生し、国際社会をリードする人材を育てます。」を基に、ヒューマンアカデミー日本語教師養成講座の理念、「多文化共生社会において、人・文化・言語の多様性の受容に理解があり、実践的な知識と技能を兼ね備えた日本語教員を育成」「グローバル化における今後の日本社会の成長に貢献します」を掲げています。また、ヒューマンアカデミー日本語学校とも教育理念を一つにする方向性を共有し、密に連携を図っています。

弊社日本語教師養成講座では、型にはまった教え方ではなく、自分の目の前にいる学習者に何を提示したらいいかということを考えられる教師の養成を目指すものでありたいと考えています。「必須の教育内容50項目」「日本語教育の参照枠」を理解実践できるように実践的な知識を学び、また多文化共生を学び、多文化共生社会に貢献できる日本語教師の育成を行っています。

## (2) 教員養成の目標及び計画

本養成機関では、以下の2点を教員養成の主たる目標として掲げています。

第一に、「日本語教育の参照枠」およびその指標である「Can-do」を深く理解し、学習者の自律的な言語習得を促すことができる講師の育成。

第二に、国家資格である「登録日本語教員試験」の合格者の多数輩出。

これらの目標を達成するため、養成課程および実践研修の双方において、「日本語教育の参照枠」の考え方をカリキュラム内に組み込んだ授業を実施しています。

### ● 日本語教師養成課程 点検及び評価項目

項目	内容	評価	備考（取り組み事項等）
1. 養成課程の内容			
1.1. 教育目標・カリキュラム			
1.1.1	養成課程の教育目標が明確に設定され、公表されているか。	5	公表しております
1.1.2	カリキュラムが教育目標達成のために適切に編成され、養成課程における日本語教師に求められる知識・能力を網羅しているか。	5	適切に実施
1.1.3	日本語教育に関する最新動向、社会のニーズを反映した内容となっているか。	5	適切にカリキュラム動画改定を行っている
1.1.4	理論科目と実践科目が連携し、効果的な学習を促しているか。	5	
1.1.5	「登録日本語教員実践研修・養成課程コアカリキュラム」を踏まえ、受講者が必須の教育内容を確実に習得し、日	5	50項目に沿ったカリキュラム

項目	内容	評価	備考（取り組み事項等）
1. 養成課程の内容			
1.1. 教育目標・カリキュラム			
	本語教育が実践できるよう、改めて各学習項目の修得方法を整理し、授業の工夫を図っているか。		である
1.1.6	実践研修や養成課程の実施を通じて、「日本語教育の参照枠（報告）」についての理解や意識づけが十分に行われるよう、引き続き工夫を図っているか。	5	参照枠を意識したカリキュラムになっている
1.2. 授業運営			
1.2.1	各科目の授業計画（指導要綱）が明確に作成され、目標、内容、評価方法等が明記されているか。	5	シラバスで担当講師に共有
1.2.2	授業方法が各科目の特性や受講生の学習段階に合わせて工夫され、効果的な学習を促しているか。	5	授業の前に今日の授業ポイントの説明を実施
1.2.3	成績評価基準が明確に設定され、客観的かつ公正に評価が行われているか。	5	出席率と科目テスト点数で評価
2. 教員体制			
2.1. 教員の資格・経験			
2.1.1	各教員が、法令で定める必要な資格・専門性・実務経験を満たしているか。	5	履歴書、職務経歴書等でチェック 後面接と模擬授業で採否決め

項目	内容	評価	備考（取り組み事項等）
1. 養成課程の内容			
1.1. 教育目標・カリキュラム			
			る
2.2. 教員の資質向上			
2.2.1	教員の資質向上を目的とした研修機会が定期的に提供されているか。	4	実施はしているが、出席率に課題有り
2.2.2	教員間の情報共有や連携が図られ、教育の質の向上に繋がっているか。	4	講師ミーティングは今年度より定例化
2.3. 事務職員体制			
2.3.1	事務職員が適切に配置され、養成課程運営に必要な知識を有しているか。	5	各校舎に事務担当と本部では学務課が統括
2.4. 教員の適正な配置と教育活動の実施			
2.4.1	教員の担当科目及び担当時間数が適切に設定され、教育活動が円滑に行われているか。	5	教員の担当科目と時間数は適切に管理できています
3. 受講者の評価			
3.1. 受講者の学習成果			

項目	内容	評価	備考（取り組み事項等）
1. 養成課程の内容			
1.1. 教育目標・カリキュラム			
3.1.1	修了者が、日本語教師として必要な知識・能力を習得し、就職し活躍しているか。	5	評価は適正に行われるようにし、就職フォローも仕組みを作っています。
3.2. 受講者の満足度			
3.2.1	養成課程全体、各科目、教員に対する受講者の満足度が高いか。	4	運営、教員に関して過程でばらつき有り
3.3. 受講者からの意見・要望			
3.3.1	受講者からの意見や要望を収集する機会が定期的に設けられ、養成課程運営に適切に反映されているか。	5	年2回の定期アンケートの実施と授業後アンケートの実施

- 日本語教師実践研修 点検及び評価項目

項目	内容	評価	備考（取り組み事項等）
1. 実践研修の内容			
1.1. 教育目標・カリキュラム			
1.1.1	実践研修の教育目標が明確に設定され、公表されているか。	5	受講の手引き等で 公表
1.1.2	カリキュラムが教育目標達成のために適切に編成され、実践研修における日本語教師に求められる知識・能力を網羅しているか。	5	アドバイザーと定期的 検証
1.1.3	日本語教育に関する最新動向、社会のニーズを反映した内容となっているか。	5	動画は定期的に更 新
1.1.4	「登録日本語教員実践研修・養成課程コアカリキュラム」を踏まえ、受講者が必須の教育内容を確実に習得し、日本語教育が実践できるよう、改めて各学習項目の修得方法を整理し、授業の工夫を図っているか。	5	受講生アンケート に基づきカリキュ ラム改定を定期的 に実施
1.1.5	実践研修や養成課程の実施を通じて、「日本語教育の参照枠（報告）」についての理解や意識づけが十分に行われるよう、引き続き工夫を図っているか。	5	参照枠については カリキュラム上意 識し作成している

項目	内容	評価	備考（取り組み事項等）
1. 実践研修の内容			
1.1. 教育目標・カリキュラム			
1.2. 授業運営			
1.2.1	各科目の授業計画（指導要綱）が明確に作成され、目標、内容、評価方法等が明記されているか。	5	カリキュラム、シラバスで明記している
1.2.2	授業方法が各科目の特性や受講生の学習段階に合わせて工夫され、効果的な学習を促しているか。	5	
1.2.3	成績評価基準が明確に設定され、客観的かつ公正に評価が行われているか。	5	講師、受講生へも明記している
2. 教員体制			
2.1. 教員の資格・経験			
2.1.1	各教員が、法令で定める必要な資格・専門性・実務経験を満たしているか。	5	
2.2. 教員の資質向上			
2.2.1	教員の資質向上を目的とした研修機会が定期的に提供されているか。	4	参加者のバラツキが有り

項目	内容	評価	備考（取り組み事項等）
1. 実践研修の内容			
1.1. 教育目標・カリキュラム			
2.2.2	教員間の情報共有や連携が図られ、教育の質の向上に繋がっているか。	4	2026年度から定期実施
2.3. 事務職員体制			
2.3.1	事務職員が適切に配置され、実践研修運営に必要な知識を有しているか。	5	
2.4. 教員の適正な配置と教育活動の実施			
2.4.1	教員の担当科目及び担当時間数が適切に設定され、教育活動が円滑に行われているか。	5	適正に配置
3. 教壇実習機関との連携			
3.1. 教壇実習機関の要件適合性			
3.1.1	教壇実習を実施するクラスが、文部科学省が定める教壇実習機関の要件を全て満たしているか。	5	満たしている
3.2. 教壇実習中の受講者支援			
3.2.1	教壇実習を行う受講者に対して、実践研修開始時のオリエンテーションを含め、問題解決のための相談体制が十分に整備・提供されているか。	5	提供している
4. 受講者の評価			

項目	内容	評価	備考（取り組み事項等）
1. 実践研修の内容			
1.1. 教育目標・カリキュラム			
4.1. 受講者の学習成果			
4.1.1	修了者が、日本語教師として必要な知識・能力を習得し、就職し活躍しているか。	5	
4.2. 受講者の満足度			
4.2.1	実践研修全体、各科目、教員に対する受講者の満足度が高いか。	4	地域、講師によりばらつきが有り
4.3. 受講者からの意見・要望			
4.3.1	受講者からの意見や要望を収集する機会が定期的に設けられ、実践研修運営に適切に反映されているか。	5	年2回の定期アンケートの実施と授業後アンケートの実施

- 共通の点検及び評価項目

項目	内容	評価	備考（取り組み事項等）
1. 施設及び設備			
1.1. 教室			
1.1.1	授業形態や受講者数に適した広さの教室が確保され、必要な設備が完備されているか。	5	
1.1.2	教室の環境が受講者の学習に適しており、安全対策が講じられているか。	5	
1.1.3	受講者が利用できるインターネット環境が安定しているか。	5	全校舎 WiFi 設備を設定
1.2. 衛生管理と利用環境の整備			
1.2.1	施設全体の衛生管理が行き届き、受講者が利用しやすい環境が整えられているか。	5	
2. その他必要な事項			
2.1. 広報・募集活動			
2.1.1	日本語教師コースに関する情報が適切かつ分かりやすく公表されているか。	5	
2.2. 修了認定			
2.2.1	修了要件が明確に定められ、登録日本語教員としての登録手続に関する情報提供や支援が行われているか。	5	
2.3. 法令遵守			

項目	内容	評価	備考（取り組み事項等）
1. 施設及び設備			
1.1. 教室			
2.3.1	関連法令（労働基準法、個人情報保護法など）および学則・規程類が遵守され、適切に運用されているか。	5	

### 【全体総括】 取り組み事項・課題など

本年度の自己点検・評価の結果、施設・設備環境、最新の動向やニーズ（「日本語教育の参照枠」や「必須の教育内容 50 項目」）を反映したカリキュラム編成および授業運営の項目においては、概ね質の高い教育体制が安定して維持されております。

一方で、教員の資質向上、教員間の情報共有および受講者の満足度については、一部に「4」および「3」の評価にとどまる項目があり、今後の改善に向けた明確な課題点としている。具体的には、提供している教員研修への出席率に偏りが見られる点、本部・校舎・講師間におけるより緊密な情報共有や連携体制に改善の余地がある点、そして講師の指導内容の理解度や実施方法、地域ごとの運用にばらつきが生じており、それが受講者満足度の差異に影響している点が挙げられる。

これらの課題を解決し、さらなる教育品質の向上と均一化を図るため、今後は以下のアクションプランを迅速に実行する。

1. **講師向け勉強会・研修の頻度向上と参加促進** 実施している研修機会を拡充するとともに、実施方法や時間帯を工夫することで全講師が主体的に参加できる環境を整え、指導内容の深い理解と実施方法の標準化を推進する。

## 2. 本部・校舎・講師間の連携および情報共有の仕組みの改善

情報共有の仕組みをよりシンプルに再構築し、連絡方法の改善を図ること  
で、本部・校舎・講師間における円滑なコミュニケーション環境を整備する。さ  
らに、定例化した講師ミーティングへの積極的な参加を促すことにより、組織  
全体での情報共有をこれまで以上に密にする。

## 3. AIを活用した講師評価と受講者満足度・理解度の向上

受講生からの授業後アンケートのコメント分析に加え、新たにAIを活用した  
講師の授業内容評価を導入する。これにより指導状況を客観的に可視化し、  
評価の芳しくない講師に対しては個別のミーティングや指導を実施すること  
で、受講満足度のダイレクトな改善を図る。あわせて、アンケートや講師から  
寄せられた「受講生の理解度が進みにくい項目」などの意見を的確に吸い上  
げ、教程のカリキュラムやシラバスの定期的な改修・最適化へと反映させるサ  
イクルを徹底する。

今後も、強みである優れたカリキュラムや施設基盤を活かしつつ、教員体制の強化と  
組織力の向上に注力し、多文化共生社会に貢献できる質の高い日本語教員の育成  
に邁進していく。